

びまん浸潤型大腸癌および2型大腸癌の 同時性多発癌の1手術例

たけ ばやし まさ たか
竹 林 正 孝

キーワード：びまん浸潤型大腸癌，大腸多発癌

要 旨

同時性多発癌の興味ある症例を経験したので報告した。症例は60歳代，男性。排便困難を自覚し受診した。大腸内視鏡検査でS状結腸の全周性狭窄を認めた。注腸造影検査では狭窄部の口側の下行結腸に限局性病変も認めた。以上からS状結腸のびまん浸潤型大腸癌の診断にて手術を施行した。S状結腸の硬化性の狭窄病変と下行結腸にも限局性腫瘍を認め広範な結腸切除を施行した。同時性多発癌，癌巣2個，SI（後腹膜），N2，H1，P2，Stage IVであった。S状結腸の狭窄性病変は粘膜下を中心に著明な浸潤硬化像を呈した。低分化型腺癌で scirrhous type のびまん浸潤癌であった。その10 cm 口側の下行結腸の2型腫瘍は中分化型腺癌で，2病変の間に連続性はなくリンパ管侵襲も認めず，2病変の組織型も全く異なることから多発癌と診断した。びまん浸潤型大腸癌と限局潰瘍型大腸癌が同時に発生するのは極めて稀であり，本邦では2例目である。文献的考察を加え報告した。

はじめに

大腸癌は限局潰瘍型や隆起型の病変がほとんどで，びまん浸潤型大腸癌はまれである。今回われわれは，S状結腸のびまん浸潤型大腸癌とその口側の下行結腸に限局潰瘍型の進行癌が発生した同時性多発癌の1例を経験したので報告する。

症 例

患者：60歳代，男性
主訴：排便困難
家族歴：特記すべきことなし。
現病歴：約3か月前ごろから便がでにくくなり，少量ずつ5～6回/日となった。症状が持続するため近医を受診し，当院紹介となった。外来での大腸内視鏡検査で直腸S状結腸部が狭窄して内視鏡が挿入不能であったため，大腸癌が疑われ入院となった。

Masataka TAKEBAYASHI

島根県済生会江津総合病院外科

連絡先：〒695-8505 江津市江津町1016-37